沂水ノ浴舎ニテ贈ル青山子容ニ　（第二編）

孔子の優れた弟子を「孔門十哲、七十子」と云う。

「子」は孔子の「子」である。「青山子容」が人名だとすれば、儒学を志す門人の内で青山と名乗る人であろう。山は、その韻が今日の感覚で言えば、カッコ良いのである。鶴山、鷹山の類いか。

字は学者や文人が用いていた自身の呼称であり、石井鶴山を字で呼ぶなら、石井仲車である。また、石井鶴山と云う人物の名は「有」であることから、通称は「有助」と呼ばれていた様だ。

長唄の「唄い」（＝歌謡）では、歌詞の文字と、その発声の対応を指す言葉を「生字」と云うが、儒学者達も色々と名前を工夫したと見える。

城之崎で歓待してくれた青山子容が筆者なら、鶴山との旅の別れに何と詠むだろうか。拙宅から綺麗処が侍る新橋の街は近い。今では東京の大隈邸が料亭となっている新喜楽に行ってみるか。

寒雨、新橋の酒楼に觴を飛ばし
石井仲車の肥前に還るを送る
其の郷の懐かしき事ども、四君子を有む

漢詩略

令和五年十二月一日

大中臣正比呂